

国

語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和6年度「共通テスト」は、平成25年度入学生から実施された「学習指導要領」を踏まえた試験であった。学習指導要領では、総合的な言語能力を育成する「国語総合」を共通必修科目とし、高等学校「国語」において指導する内容の共通性を重視している。

共通テストでは、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっており、言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求めることとなっている。

これらを踏まえ、高等学校「国語」教科担当としての立場から、本年度の試験問題を検討した。「内容・範囲」「分量・程度」「表現・形式」の面から第1問～第4問のそれぞれを評価し、以下に意見を述べる。

なお、評価に当たっては、報告書(本試験)14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 漫画家手塚治虫が描いた「キャラクター」の特徴について述べた【文章Ⅰ】と、「〈キャラ〉」を理論的に考察した【文章Ⅱ】からの出題である。二つの文章を示すことにより、「キャラクター」のもつ特質について多角的な視点から捉えることができるようになっており、論理的かつ抽象的な文章の内容を的確に読み取る力や思考力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢字・熟語についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 手塚の描く「キャラクター」が一人の人間の個性をもたない理由について、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 「まんが記号」と「汎世界化」の関連を手塚が理解していたとする理由について、傍線部直前の内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 【文章Ⅱ】の文脈を正確に捉え、図2に描かれているイメージと関連させながら、本文の内容を的確に読み取り、構造的に理解する力を問うている。

問5 「〈キャラ〉」が「象徴記号」ではなく「指標記号」的なものであるということについて、前後の文脈を正確に捉え、傍線部の内容を的確に読み取る力を問うている。

問6 (i) 二つの文章を読んだ後の話し合いという学習の場面を通して、二つの文章の内容を比較しながらそれぞれ端的に理解する力を問うている。

(ii) 「〈キャラ〉」が「〈顔〉的対象」であるということについて書かれている【文章Ⅱ】の後半の内容を的確に読み取る力を問うている。

(iii) 二つの文章を踏まえて、インタビュアーの反応について考察し、二つの文章の内容を深く解釈する力を問うている。

第2問 印刷会社の社長とのやりとりが描かれた回想場面を中心とし、新たな生活へと気持ちを

向かわせる「男」の心情を描いた文章である。「男」の視点を中心にその内面について丁寧に描写されており、心情の変化の把握を中心とした文学的な文章を読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 「鼻白む」という語句の意味についての基本的な知識を問うとともに、その理由について傍線部の前後の文脈を正確に読み取る力を問うている。

問2 傍線部に至るまでの「男」の心情の変化について、文脈を正確に捉え、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 「昂奮」「歩きまわり」という表現から、社長の行動がどのように描写されているかについて、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 社長とのやりとりの回想がなぜ「にがにがし」いものだったのかについて、これまでの流れを総合して、「男」の心情の変化を的確に読み取る力を問うている。

問5 「群から脱落した鳥の一羽」という比喻表現の解釈を根拠として、新たな生活へと気持ちを向かわせる「男」の心情を的確に読み取る力を問うている。

問6 (i) 現在の場面と回想の場面とを行き来する本文の時間の流れを、正確に捉えて理解する力を問うている。

(ii) 本文全体を通して「男」がどのように描かれているかについて、その展開を端的に捉える力を問うている。

問7 (i) 表現や内容について自分の考えをまとめるという学習の場面を通して、本文において比喻表現が象徴的に意味しているものを文脈に即して的確に捉える力を問うている。

(ii) 提出された二つの文章がどのような観点で書かれているのか、その特徴を的確に読み取る力を問うている。

第3問 室町時代の幸若舞『景清』からの出題である。平家の残党である景清の妻・阿古王が、景清を欺いて源頼朝に討たせるために清水坂の自宅に迎え入れる場面を取り上げている。単語や文法の知識、(注)を参考にして古文を的確に読み取る力、また、素材文の多様性が意識されており、作品の内容の豊かさを理解する力を確認する上で適切であった。問5では、本文と同じく景清を題材とした他のジャンルの作品で学習する場面を設定し、【ワークシート】に従って二つの作品を読み比べ、内容を深く理解する力を確認している。

問1 本文の読解に必要な基本的な語句の知識を問うている。

問2 語句や文法の知識を根拠に、本文の内容を理解する力を問うている。

問3 本文[1]段落を踏まえて、登場人物の考えを的確に読み取る力を問うている。

問4 登場人物の言動を正しく整理し、本文[3]段落を総合的に読み取る力を問うている。

問5 (i) 本文と異なるジャンルである浄瑠璃『出世景清』を資料として読み、【ワークシート】を作成しながら、その内容を読み取る力を問うている。

(ii) (i)を踏まえつつ、『出世景清』にしか登場しない人物の作品上の役割について考える力を問うている。

第4問 明代末期から清代初期の思想家である賀貽孫が著した『激書』からの出題である。「豪傑」なる者と「聖賢」なる者の生き方について論理的に述べられた文章であり、漢文に用いられる基本的な知識や句法を基にして漢文を的確に読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な基本的な句法や漢文特有の語の知識を問うている。

問2 漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし、傍線部直前の内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 本文の読解に必要な基本的な句法についての知識を活用して、文脈を的確に読み取る力を問うている。

問4 「彼」「人」が何を指しているのかということについて、文脈を正確に捉え、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 本文を的確に理解するために必要な訓読のきまりや書き下し文についての基本的な知識・技能を問うている。

問6 本文の読解に必要な基本的な句法についての知識を活用して、傍線部の内容を的確に読み取る力を問うている。

問7 本文全体の趣旨について、文章の展開に即して的確に読み取る力を問うている。

3 分量・程度

(1) 設問数について

制限時間80分に対して大問は4問で、大問ごとの設問数は第1問が6問、第2問が7問、第3問が5問、第4問が7問であった。全体の解答数は38で、適切であった。

(2) 難易度について

第1問は、本文及び設問中の会話文とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。また、問6のように、【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の二つの文章について比べ読みを行い、文章を理解する学習過程を意識した設問などを含め、全体的に難易度としては適切であった。

第2問は、本文及び設問中の【Qさんの文章】【Rさんの文章】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。また、本文中の語彙の意味を根拠に正答を導く設問や、問7のように二つの文章のそれぞれの特徴について考察する設問などを含め、全体的に難易度としては適切であった。

第3問は、本文及び副素材となる文章、【ワークシート】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。また、基本的な語句や文法の知識を活用して解答する問いに加え、他のジャンルを資料に用いて、比較して読むことにより内容の理解を段階的に深めていく設問があり、古文の学習成果を見る上で適切な難易度であった。

第4問は、本文は高等学校の授業で扱う文章レベル、文章量として妥当であった。また、句法など基本的な知識を活用して解答する設問があり、高等学校における漢文の学習成果を見る上で適切な難易度であった。

以上のように、各大問とも学習指導要領を踏まえ、学習の過程を意識した設問もあり、分量及び難易度は妥当であった。

4 表現・形式

第1問 配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問6〕「キャラクター」や「〈キャラ〉」について書かれた二つの文章を授業で読んだ複数の生徒が、それぞれの文章の中で「キャラクター」や「〈キャラ〉」がどのように定義づけられているのか考察するとともに、二つの文章を関連付けて読むことで得られる気付きについて話し合う学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

二つの文章の内容について、生徒たちが対話的な学びを通して理解を深めていくという学習の過程を重視した問い方となっており、受験者の日頃の学習活動を踏まえたものであると考えられる。

第2問 配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問 7〕授業で教師から出された「本文の表現や内容について自分の考えをまとめよう」という課題について、生徒たちが考えたことを文章にまとめるという言語活動を重視した学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

「書くこと」に通ずる言語活動が設定されているが、生徒の書いた文章を読み、その特徴を考察するものであった。「書くこと」に関する言語活動の学習場面を設定する際には、出題のあり方を検討いただきたい。

第 3 問 表現や用語は受験者の混乱を招くものではなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問 5〕幸若舞である本文を学んだ生徒が、本文と同じく景清を題材とした浄瑠璃『出世景清』を学習し、本文と比較して考えたことを【ワークシート】にまとめるという学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

同じ人物を題材とした複数の文章の内容を比較検討することで、登場人物の設定のねらいについて考察する学習の過程を重視した問い方となっており、受験者の日頃の学習活動を踏まえたものであると考えられる。

第 4 問 表現や用語は受験者の混乱を招くものではなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問 7〕明代末期から清代初期の思想家である賀貽孫が自著『激書』の中で、明代の思想家の禿翁(李贄)をどのような人物として評価しているのかを問うている。センター試験時代から良問の蓄積と改善を重ねてきた問いに通ずるものであり、問題作成方針に合致している。

一方で共通テストから見られた、言語活動の過程や多面的・多角的な視点からの解釈を重視した問いになっているかといえ、心許ない。高等学校の授業においては、単に素材文の内容の解釈にとどまらず、学習者の課題を解決したり、興味関心を喚起したりする授業改善が行われているところである。こうした状況を踏まえ、学習の目的やその目的を達成するのにふさわしい言語活動等を念頭に置いた出題の工夫について、今後検討いただきたい。

5 ま と め（総括的な評価）

知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する問題作成方針に則した良問が、生徒の学習の過程が意識された場面設定の中で出題されたことを評価する。本テストが、高等学校での学習を通して受験者が身に付けた力を評価するのに妥当な問題として作成され、また、生徒の言語能力を育成する高等学校国語科の授業づくりに資することを期待して、意見・要望を以下に示す。

- (1) 「国語総合」の枠の中で学習指導要領に沿った作問がなされていた。第 1 問における二つの文章を読んで双方を関連付けて「キャラクター」の特徴を考察する場面、第 2 問における本文の表現や内容について考えをまとめる場面、第 3 問における同じ場面を描いた二つのジャンルの作品を比較し考察した内容を【ワークシート】に記す場面など、学習者による「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた設定のもと工夫された形式で出題されており、平素の学習活動を通して身に付けた力を評価できるものとなっている。
- (2) いずれの大問においても、本文が難易度に応じた分量となっており、時間内でテキストの細部を検討したり全体の要旨を把握したりして読み、設問の意図を捉えて選択肢を吟味することが可能であったと思われる。第 2 問における本文の表現や内容を考察した二つの文章も適切な分量で過不足なくまとめられており、第 3 問における【ワークシート】も生徒が二つの異なるジャンル

の作品を読んで内容を考察してまとめたという場面設定のもと効果的に提示されている。今後も、受験者がこのような設問に対して十分に思考し、判断することを通して、本文の理解を深めることができるための適当な時間が確保されるよう求めたい。

- (3) 本テストは、生徒が総合的な言語能力を養うために「どのように学ぶか」を重視していることが感じられるものであった。第1問における二つの文章を関連付けて考察し対話することで思考を深める言語活動の工夫、本文の内容の正確な理解を見るために図式化することを求める問いの工夫、第3問における二種類のジャンルの作品を題材として人物の描かれ方を比較する課題設定の工夫など、授業改善の視点において大いに示唆に富むものであった。第2問においては「書くこと」の言語活動につながる場面設定がなされており、令和7年度以降の共通テストの出題範囲となる「現代の国語」における「書くこと」の学習活動の充実につながるものである。しかしながら、今回の出題は読む力を見るものとなっているため、今後は目的や場面に応じて文章を書く力をより見ることができる設問の工夫を求めたい。また、第4問においても文章を読む目的が明示されたり、学習課題が設定されたりするなど学習の過程を意識した場面設定が行われることが求められる。
- (4) 近代以降の文章、古典とも、高校生が読むのにふさわしい多様な素材が用いられている。特に古文においては、我が国の言語文化の一つである幸若舞や浄瑠璃の一節が扱われており、令和7年度以降の共通テストの出題範囲となる「言語文化」の指導の充実に資するものであると言える。出題に当たっては、素材文の魅力や価値を十分に生かし、受験者が文章や資料から得た情報を多面的・多角的な視点から解釈する力を発揮することのできる設問が、すべての大問においてバランスよく出題されるよう工夫していただきたい。また、素材として実用的な文章を含めた多様な文章を活用した出題など、高等学校国語科における授業改善を促し、生徒の言語能力の育成に資する出題を期待する。